

国有林と地域のふれ合いを求めて

野尻・総務課労務係 ○柳 沢 芳 夫
管 理 係 三 宅 修
処 分 係 下 原 義 雄

要 旨

地域の人たちに国有林を身近かに感じて頂き、その中から国有林に対する理解と協力を得るため、お盆などに営林署の駐車場を開放するなど、地域の身近かな要望に応えたり、合同植樹祭・木霊祭・森林教室では、村、学校、業界などと連携を密に協力しながら行い、森の里の秋祭りなど各種イベントへの参加では、職員の創意工夫による小木工品等の販売・国有林のPRなど職員が一体となって、取組みを行った。イベントなどを通じて、日頃、国有林との係わりの少ない、住民の皆さんとのふれあいを深め、地域の中の営林署をアピールするとともに、活力ある職場づくりに一応の成果が認められた。

は じ め に

私たちの署においては、地域の人たちに国有林を身近かに感じて頂き、その中から国有林に対する理解と協力を得るため、地元の産業、教育、文化等の発展のために、国有林のもてるものを積極的に提供し、地域の諸行事についても積極的に参加し、そのPRに努めている。

I 管内の概要

野尻営林署は、長野県の南西部・木曾谷の南部に位置し、大桑村一村を管轄区域にしている。大桑村の面積は、23,400ha その内、国有林は、17,800ha あり、76%にも及んでいる。人口は5,300人で、木曾郡下11カ町村の中で、4番目に当たる。

大桑村には、水力発電所が一村に8ヶ所（国有林3ヶ所）あり、一村に8ヶ所もあるのは、日本一である。

大桑村の基幹産業である、木材関連企業が35社、従業員400名、年間出荷額66億円にも及んでいることなどから、地元と密接な関係にある。

II 身近な要望に応える営林署

野尻地区は、谷あい宿場町のため、広い場所がないので、お盆、お祭りに、営林署の駐車場を開放している。ことに、お盆には、踊りの会場などとして、帰省された皆さんと地元の皆さんとの、ふれあいの場所となっている。



写一1 地域とのつながりで咲いた、ふれあいの花壇

野尻駅前のベンチ修繕も、地元の要望に応え、営林署で資材を提供し修繕を行い喜んで頂いている。

庁舎入口の石垣に近所の人たちと、営林署の家族の皆さんが花壇を作り、美しい花を咲かせ、地域の美化に役立っており、小さなつながりを通して、開かれた営林署のイメージアップに努めている。

Ⅲ 村と共に合同植樹祭



写一 2 村と合同の植樹祭



写一 3 地元木材業界に林野庁長官感謝状贈呈

本年度は、4月に村有林内において、村民ら230名を迎えて行われた合同植樹祭は、経費の節減と多くの村民に植樹の機会を作るため、昭和58年度から始まり、お互いに交替で連絡を密に、協力しながら行われている。村民の皆さんとはもとより、大桑村と姉妹都市の愛知県師勝町の皆さんとも交流ができ、分収育林の契約も頂いている。また、国有林との付き合いの少ない、誘致企業の皆さんを、招待して交流を深めている。

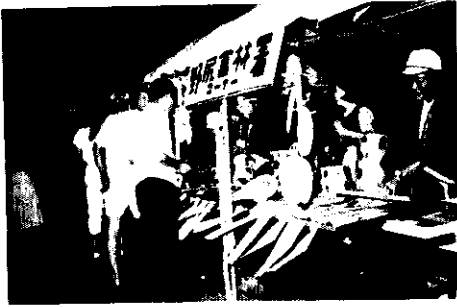
Ⅳ 木の霊に捧げる木霊祭

本年度も5月に、阿寺国有林において、22社の社長、従業員ら250名が参加して行われた木霊祭は、大桑木材生産協同組合・大桑木工業協同組合が、その糧を木材から得ることから、「木の霊」に感謝するという意味で、昭和34年から国有林へ植樹を行ってきたもので、第1回から今年まで29ha、延5,000人を超える実績にもなっていることから、国土の緑化と、緑化思想の高揚に寄与された功績は、多大であるとして両組合に、林野庁長官感謝状が贈呈された。当署としても、最も身近な業界関係者に、国有林を知って頂ける、絶好の機会として全面的に協力を行った。

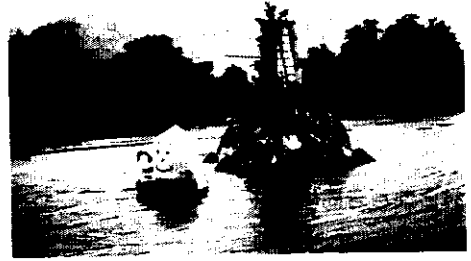
Ⅴ 初参加した夏の観光まつり

初参加した夏の観光まつりなど、大桑村では、村の活性化などをテーマに数多くのイベントが行われた。

夏の観光まつりは、8月に地元の民族行事として例年実施されている「羅炎」に併せて、駅前広場で「納涼会」「盆踊り大会」が行われた。この会場に営林署コーナーを設け、職員のアイディアによ



写一4 盆踊り会場で「たいまつ」販売



写一5 木曽川を下る「みどり号」

る、小木工品、お盆用松明、野菜の手などの販売を行い、中でも松明は時期的な事も重なり、「毎年欲しい」との声も聞かれ、地域住民の皆さんから好評を得た。

Ⅵ 清流に浮かぶ「ミドリ号」木曽川筏下り大会

8月、木曽川において、優勝したヘリコプター風筏チーム、郵便局チーム、親子チームなど、6チームが参加して行われた。営林署チームは、若手グループを中心にアイデアを出し合い、「緑と水の森林基金」のマスコット「ドングリ君」を引き連れ、緑のシンボル「ヒノキ」をメインマストとし、分収育林募集の旗のもと「みどり号」で参加し3位に入賞した。雨の中、地域の皆さん200名が集まり、橋の上から「営林署ガンバレ」と声援を頂いた。また、新聞にも掲載され、広く地域にPRすることができた。「営林署が参加してくれたおかげで、盛り上がる事が出来た」などの声も聞かれ、営林署をアピールする良い機会であった。

Ⅶ 森の里の秋まつり

11月、村のスポーツ公園を中心に、住民ら、5,000人が集まり、日頃練習をつんだ芸能発表会、JRのミニSLの運転、物産展示会など、出店が数多く集まり盛大に行われた。当署も屋外と屋内に営林署コーナーを設け、小木工品などの販売、パネル・ビデオによる治山事業などのPRを行う



写一6 お祭り広場で踊る若者たち



写一7 国有林のPRを兼ねて小木工品販売

とともに、小中学生を対象に、「村花」・「村木」を含めた「樹の名前当てクイズ」を行い、若いお母さんづれの小学生に盛況であった。イベントへ向けての小木工品の採取、制作は、全職員のアイデアと協力のもとに行われ、特に現場第一線の基幹作業職員には、サルノコシカケの採取、人工林ヒノキの末木部分の採取に協力を得て、アクセサリーハンガー、おきものなどの製作を行った。販売コーナーでは、全員、揃いのハッピーに着替え、笑顔で販売に当たり、50万円の収入を得る事が出来た。地域の皆さんからは、「こんな物が、こんな風に利用できるのかね」などと職員のアイデアに感心をしていた。また、「宮林署は商売上手だね」とお誉めの言葉も頂き、和気あいあいの中で、地域の皆さんと、コミュニケーションを深めることができた。

Ⅶ 森と友達に森林教室

今年度も、5月と10月に阿寺国有林において、大桑村の小学校2年生、6年生、中学校の3年生を対象に、200名が参加して行われた。担当区主任、事業所主任が一日先生となり、主任特製の手作り紙芝居などで、山で働く人たちについての説明や植える苦勞と植える喜びを、身を持って知って頂くため、手助けをしない植えつけの実習を行った。また、木と親しんでもらおうと、丸太切などを行い楽しい森林教室であった。

森林教室は、昭和47年から18年の歴史があり、受講者も2,500名にも達している。10年前に森林教室を受講した人たちに聞いてみると「木を植えたのは、あの時が初めてだったので、とても懐かしい」「植えた木が、どうなっているか見たい」「私たちのタイムカプセルなので、これからも是非続けてほしい」と話しておられた。また、2年生のお礼の手紙の中にも「6年生になったら木を植えていきます」と書かれているなど、学校のカリキュラムにも組込まれ、学校教育の一役を担っている。



写一8 森林教室は手作り紙芝居



写一9 初めて鋸を手にした真剣な小学生

Ⅹ ま と め

1. イベント等を通じて、日頃、国有林との係わりの少ない住民の皆さんと、直接肌と肌で接することができ、親しみが深まるとともに、地域と言う立場から客観的に営林署を見ることができ、より一層、地域とのふれあいの重要性を再認識した。
2. 「営林署が参加したお陰で盛り上がることができた」などの声のように地域の中の営林署をアピールすることができ、一応の成果が認められた。
3. イベントへの協力、工夫、イベントでの笑顔のように、活力ある職場づくりに効果があった。
4. 植樹祭・イベント・森林教室を通じて、村・学校・業界等との連携が、なお一層深まった。

お わ り に

今後も、国有林野事業を進めるに当たり、地域とのふれあいは、ますます重要になってくる。これからも新しいものも取り入れ、国有林のもてるものを積極的に提供し、地域の諸行事にも積極的に参加し、地域に愛され、親しまれ、信頼される営林署づくりに努めたいと考える。